ハマッチ（初版）

つい、二〜三日前のことです。自分の伝えたいことがどうしても相手が理解してもらえずとても、落ち込んでおりました。

押し花のレッスンで、セラミックスタッコというしっくいの材料を使い台紙をつくるという作業をしていた時のこと。手順はきちんと、資料を渡しよく読み合わせをし、デモでやってみせたにもかかわらず、色ぬりの時点であれだけ薄い色からと云ったのにもかかわらず、ベッタリ、ベッタリ濃い色をぬりたくった時にはすでに遅し。しっくいの特長のデコボコの味のある色にできませんでした。

ガックリ!!　これでは、ただ、紙に色をつけただけ。何にもならないヨーォ〜と心の中で叫び、恐怖におののきました。

それでもなんとか、一枚づつ、手直しをしなんとか形がつくようになりました。

友達に話したところ、色はその場にあまりたくさん出さない方がいい。最初から上手に出来たら、先生はいらないのよと云ってくれました。二回分できるのだから、次回みんなでチャレンジし、濃くなり過ぎ、しっくい台紙の特長が生かせなかったと一人一人の台紙を見ながら再度すればいいんじゃない。そうだよね。この色もっと薄くすればこうなるよねと、一人一人が分かるように手順の確認し合えばいいと思いました。

各自の個性を尊重しつつ、ていねいにゆっくり説明をくり返し、あわてず、講えることにします。

私自身も、もう一度、作業手順の確認をし自信をもってやって行こうと思います。どうか上手く説明できますように。

ハマッチ

つい、二〜三日前のことです。自分の伝えたいことがどうしても相手が理解してもらえなくて、~~ず~~とても~~、~~落ち込んでおりました。だ気分になりました。

※語彙を考えます。
修正前「もらえず」
修正後「もらえなくて」
修正前「落ち込んでおりました」
修正後「落ち込んだ気分になりました」
合っている、間違っているという話では、ありません。こうしたちょっとした言葉の選択が、文章全体の雰囲気をつくっていく、ということです。ハマッチは、どんな読み手に、どんなことを伝えたくて、文章を綴りますか？

押し花のレッスンで、セラミックスタッコというしっくいの材料を使い台紙をつくるという作業をしていた時のこと。
※「こと」で終わらせたくないです。日本語の３文型で書くようにしましょう。
【分解】
押し花のレッスンがあります。
私たちが作業をしました。
セラミックスタッコという名前の建材を私たちが使いました。
私たちが台紙をつくりました。

【再構築】
講師として私は、押し花を教えています。ある日、生徒と一緒に、押し花の台紙をつくりました。台紙には、セラミックスタッコと呼ばれる“しっくい（建材）”を使います。これは、消石灰にノリや粘土、砂などを混ぜた塗り壁材料のことです。そうやって、みんなで作業をしているときに、びっくりすることが起きました。

手順はきちんと、資料を渡しよく読み合わせをし、デモでやってみせたにもかかわらず、色ぬりの時点であれだけ薄い色からと云ったのにもかかわらず、ベッタリ、ベッタリ濃い色をぬりたくった時にはすでに遅し。しっくいの特長のデコボコの味のある色にできませんでした。
※長い文なので、いくつかに切り分けたいです。

【分解】
・生徒がしっくいの魅力をだいなしにしていた。
・しっくいは薄く塗っていく。
・特長であるデコボコとした質感になり、味わい深さのある色味になる（デコボコは色味ではないので、質感、と捉えました。質感と色味は、パラレリズムで対等な関係をつくる必要があるため、「デコボコとした質感」「味わい深さのある色味」としてみました）
・私が手順を生徒に説明した。
・私がデモでやった。

さて、これらの文を、再構築しますが、何文くらいに分けるとよいでしょうか。

~~ガックリ!!~~ “これでは、ただ、紙に色をつけただけ……。何にもならない”~~ヨーォ~~と心の中で叫び、~~恐怖におののきました。~~ました。
それでもなんとか、一枚づつ、手直しをしなんとか形がつくようになりました。
友だち~~達~~に話したところ、「色はその場にあまりたくさん出さない方がいいよ」と助言をしてくれました。「~~、~~最初から上手に出来たら、先生はいらないのよ~~と云ってくれました。~~」とも、言ってくれました。それを聞いた私は、“二回分できるのだから、次回みんなでチャレンジして、一人ひとり分かるように、手順の確認し合えばいい”と思いました。~~、~~濃くなり過ぎたために、しっくい台紙の特長が生かせなかったと、一人~~一人~~ひとりの台紙を見ながら改めて思いました。~~再度すればいいんじゃない。そうだよね。この色もっと薄くすればこうなるよねと、一人一人が分かるように手順の確認し合えばいいと思いました。~~
各自の個性を尊重しつつ、ていねいにゆっくり説明をくり返し、あわてず、講えることにします。
私自身も、もう一度、作業手順の確認をし自信をもってやって行こうと思います。どうか上手く説明できますように。
※この２文、急に、読み手に話しかけるような文になりました。客観的に。距離感を大切に。

この文を読んで、こんなふううにまとめたらいいのではないかと感じました。

【結論】
私は「誰もが学び手であるということを学んだ。いまからその話をする。
【各論】
私は先生をしている。
しかし、生徒が失敗していることに気がついた。
友だちに相談すると、「最初から上手くできたら、先生はいらない」と言ってくれた。
まだ、チャンスはあるから、次回は反省を活かそうと思った。
そのとき気がついた。私も先生として未熟で、まだまだ学び手なのだと。
先生であることの初心者であることを、生徒から教わって気がした。
【総論】
これが、私が「誰もが学び手である」ということを学んだ経験だ。

コメントの追加 [U1]: おや？　こんなフォーマットでしたっけ？　結論として、「何を学んだのか」を書きましょう。読み手は、いまからその話がはじまるのだな、というメンタルモデルを持って、読み進めることができます。いまの状態だと、「落ち込んだ話がはじまるんだなー」という印象です。

コメントの追加 [U2]: まずは正統派の文章を目指します。正統派をマスターしたら、いろんな遊びを出しましょう。

コメントの追加 [U3]: 語彙に注意。「熊が出た」のならわかります。文の流れと語彙の選択がかみ合っていません。

コメントの追加 [U4]: 「形がつく」という言葉は聞いたことがありません。「形になる」でしょうか。しかし、文脈から見ると、「塗り」の問題のように感じています。塗り、だとすると、形、ではないのでは？

コメントの追加 [U5]: 総論がありません。